

⑦ 中高 美術科問題の解答について (注意)

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「美術」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から66までの通し番号になっており、例えば、25番を

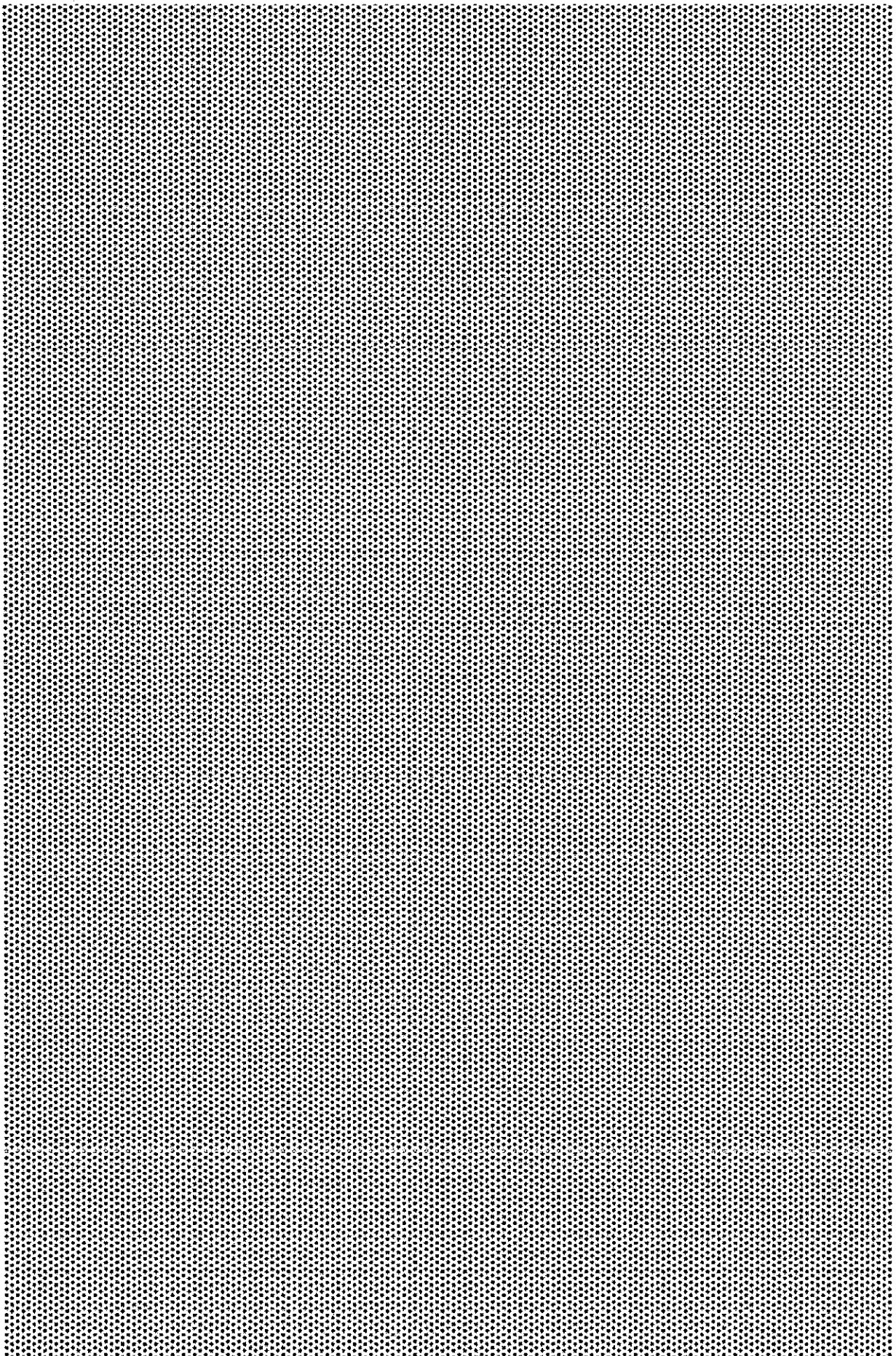
25

 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

(マークシート記入例)

フリガナ	コウベケロウ	教科名	美術
名前	神戸太郎		

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
						1 - 25		26 - 50		51
数字で記入……					1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
	1	2	3	4	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
	0	0	0	0	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
	0	0	0	0	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
	0	0	0	0	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
	0	0	0	0	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
	0	0	0	0	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
	0	0	0	0	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
	0	0	0	0	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
	0	0	0	0	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
	0	0	0	0	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0



【1】 次の問いに答えよ。

(1) 「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。（*は、中学校・特別支援学校中学部）

- ① 道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。
- ② 道徳科の指導の際には、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないように配慮することが大切である。
- ③ 児童（*生徒）が今後、様々な問題場面に会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。
- ④ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、道徳的価値について理解する学習を欠くことはできない。
- ⑤ 道徳的実践意欲は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。

- (2) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」に関する記述の一部である。（ア）～（ウ）にあてはまる適切な語句の組合わせを①～⑤から選び、番号で答えよ。

〈小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編〉

道徳科の指導体制を充実するための方策としては、まず、全てを学級担任任せにするのではなく、特に効果的と考えられる場合は、道徳科における実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。校長や教頭などの参加による指導、他の教職員との（ア）などの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の（イ）を生かした指導を行うことなど、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫することなどを、学校としての方針の下に（ウ）が中心となって進めることが大切である。なお、校長等が授業に参加する際は、道徳科の特質を十分に理解して臨む必要がある。いずれの場合においても、授業にねらいをもたせ計画的に行われなければならない。

〈中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編〉

道徳科の指導体制を充実するための方策としては、全てを学級担任任せにするのではなく、特に効果的と考えられる場合は、道徳科の実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。校長や教頭などの参加による指導、他の教職員との（ア）などの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の（イ）を生かした指導などにより、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫するなどを、学校としての方針の下に（ウ）が中心となって進めることが大切である。また、複数の教職員による学年全体での授業等も考えられる。なお、校長等が授業に参加する際は、道徳科の特質を十分に理解して臨む必要がある。いずれの場合においても、授業にねらいをもたせ計画的に行われなければならない。

- | | | |
|-------------------|----------|--------------|
| ① （ア） ティーム・ティーチング | （イ） 得意分野 | （ウ） 道徳教育推進教師 |
| ② （ア） ティーム・ティーチング | （イ） 経験 | （ウ） 管理職 |
| ③ （ア） ティーム・ティーチング | （イ） 経験 | （ウ） 道徳教育推進教師 |
| ④ （ア） 話し合い | （イ） 得意分野 | （ウ） 道徳教育推進教師 |
| ⑤ （ア） 話し合い | （イ） 経験 | （ウ） 管理職 |

- (3)「小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成29年告示 文部科学省)「第3章 道徳科の内容」では、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を、四つの視点から分類整理している。次の内容項目ア、イと四つの視点A～Dの正しい組合わせを①～⑤から選び、番号で答えよ。

内容項目

ア 家族愛、家庭生活の充実

イ 感動、畏敬の念

四つの視点

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会との関わりに関すること

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- ① アーA イーB
- ② アーB イーA
- ③ アーB イーD
- ④ アーC イーA
- ⑤ アーC イーD

【2】 次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は、「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)における、教科の目標に関する解説の一部である。(ア)～(ウ)にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

○「材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする」について

(……中略……)

創造的につくったり表したりすることができるようにするとは、自分の(ア)を基に活動を充実させ、自分らしくつくったり表したりする技能を育成することである。「技能」は、一定の手順や段階を追って身に付くだけでなく、変化する(イ)に応じて主体的に(ウ)する中で身に付く。児童一人一人の自分なりの「技能」は、豊かな(ア)に基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに働いて、初めて発揮されるものである。

(ア) ① 知識 ② 感性 ③ 思い ④ 体験 ⑤ 生活

4

(イ) ① 児童の実態 ② 特質や内容 ③ 発達の特徴
④ 状況や課題 ⑤ 生活範囲の広がり

5

(ウ) ① 試行 ② 経験 ③ 表現 ④ 訓練 ⑤ 活用

6

(2) 次の文は、「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)における、指導計画の作成と内容の取扱いに関する解説の一部である。(ア)、(イ)にあてはまる適切な語句を①～⑤から、(ウ)を①～③からそれぞれ選び、番号で答えよ。

(3)【共通事項】のアの指導に当たっては、次の事項に配慮し、必要に応じて、その後の学年で繰り返し取り上げること。

この事項は、各学年における〔共通事項〕の(1)アの指導に当たって配慮する事項を示している。〔共通事項〕の(1)アは、(ア)に関する事項であり、低学年では「自分の(イ)を通して、形や色などに気付く。」中学年では、「自分の(イ)を通して、形や色などの感じが分かる。」高学年では、「自分の(イ)を通して、形や色などの造形的な特徴を理解する。」と示している。なお、ここで言う「(ア)」とは、形や色などの名前を覚えるような知識のみを示すのではない。児童一人一人が、自分の(イ)を通して理解したものであり、造形的な視点である「形や色など」、「形や色などの感じ」、「形や色などの造形的な特徴」などが、活用できる「(ア)」として習得されたり、新たな学習の過程を経験することで更新されたりしていくものである。

(3) では、それぞれの学年を中心に扱うことを基本としながら、必要に応じてその後の学年で繰り返し取り上げるようにし、児童が自分の（イ）を通して形や色などを捉える経験を重ねながら、次第に児童自身が気付いていくようにすることを示している。

(ウ)においては、児童の(イ)を通して、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えるよう配慮することを示している。いろいろな形や色、触った感じなどとは、造形活動や鑑賞活動において出会う形や色、材料などに実際に触ってみた感じなどのことである。

- (ア) ① 知識 ② 技能 ③ 思考力・判断力・表現力等
④ 学びに向かう力 ⑤ 人間性

7

- (1) ① 感覚や想像 ② 表現や想像 ③ 感覚や行為
④ 表現や行為 ⑤ 想像や行為

8

- (ウ) ① 第1学年及び第2学年 ② 第3学年及び第4学年 ③ 第5学年及び第6学年

9

- (3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)教科の目標についての解説の一部である。(ア)～(オ)にあてはまる語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

「美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める」について

ここでは、造形的なよさや美しさを感じ取ったり、表現の意図と工夫、(ア)や美術文化などについて考えたりして、見方や感じ方を深める鑑賞に関する資質・能力について示している。

ここでの美術とは、単に美術作品だけを指しているのではなく、美術科で学習する(イ)や身の回りの環境、事物なども含めた幅広い内容を示している。鑑賞の学習では、自分の見方や感じ方を大切にしながらか主体的に造形的なよさや美しさなどを感じ取ることを基本としている。そして生徒自身が(イ)や美術作品などに働きかけ、豊かに関わることを通して、自分の中に新しい意味や価値をつくりだす創造活動である。

また美術文化については、材料・技術・方法・(ウ)などによって美を追求・表現しようとする美術の活動や所産など、人間の(エ)や手の働きによってつくりだされた有形・無形の成果の総体として幅広く捉えることが大切である。そしてそれは現代の生活や社会の中の(ア)とも大きく関わり、つながっているものである。私たちの身の回りには、美術作品だけでなく伝統工芸や文化遺産、さらには自然物や人工物なども含めて美術や美術文化として捉えることができる対象が多く存在する。これらに対する見方や感じ方を深めることは、人間が豊かな(オ)を創造する上でなくてはならないことである。

- (ア) ① 美術の働き ② 美術の歴史 ③ 表現の方法
④ 表現の主題 ⑤ 表現のメディア

10

- (イ) ① 多様な視点 ② 材料や用具 ③ 自然の造形
④ 対象や主題 ⑤ 環境の造形

11

- (ウ) ① 時代 ② 主題 ③ 思想
④ 作風 ⑤ 様式

12

- (エ) ① 技能 ② 知識 ③ 欲求
④ 精神 ⑤ 感性

13

- (オ) ① 歴史と伝統 ② 生活や社会 ③ 文化的な社会
④ 文化や環境 ⑤ 芸術的な社会

14

- (4) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における、指導計画と内容の取り扱いの3内容の取扱いについての解説の一部である。(ア)～(オ)にあてはまる語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

日本の美術作品などに関する鑑賞の指導

第2学年及び第3学年の日本の美術作品などの鑑賞と関連する「B鑑賞」(1)のイ(イ)では、第1学年の身近な地域や日本の文化遺産などの(ア)などに関する学習を踏まえて、日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化の(ア)を感じ取り、見方や感じ方を深めることを重視している。

日本の美術の概括的な変遷などを捉えることとは、日本の美術の時代的な大まかな流れについて捉えることを示している。ここでは、日本の美術の伝統や文化の(ア)を感じ取ることができるよう、各時代の作品などを鑑賞し、(イ)を把握しながら日本の美術の時代的な流れを大まかに捉えていき、各時代における作品の特質、人々の感じ方や考え方、(ウ)などを感じ取ることができるよう配慮することが大切である。その際、単に美術の通史や知識として暗記させる学習になることのないよう、作品の鑑賞を基にして、(エ)や時代背景、美術作品等の特質という視点から鑑賞の学習を進めていく必要がある。また、調べる活動を行うに当たっては、美術館や図書館などを効果的に活用するとともに(オ)の機会を設け、計画的に実施する必要がある。

- (ア) ① 多様性 ② よさや美しさ ③ 豊かな歴史
④ 個性と特質 ⑤ 独自性

15

- (イ) ① 技法や材料 ② 様式や作風 ③ 相違点や共通点
④ 変化や特徴 ⑤ 主題や表現

16

- (ウ) ① 願い ② 生活 ③ 価値観
④ 感性 ⑤ 見方

17

- (エ) ① 時代の変遷 ② 異なる文化 ③ 社会の形成
④ 普遍の精神 ⑤ 歴史の文脈

18

- (オ) ① 取材 ② 質問 ③ 訪問
④ 対話 ⑤ 発表

19

- (5) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」（平成30年7月 文部科学省）における美術Ⅰ 科目の目標（2）に関する解説の記述である。誤っているものを①～⑦から3つ選び、番号で答えよ。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

- ① 造形的なよさや美しさとは、形や色彩などの外形に見えるよさや美しさなどのことである。
- ② 表現の意図と創意工夫とは、作品などに込められた作者の心情や表現の意図と創意工夫などのことである。また、美術の働きなどとは、生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きなどのことである。
- ③ 「(1) 絵画・彫刻」において自画像を制作する題材について考えると、自画像を描くこと自体が学習の中心であり、造形的に美しく表現する方法について考えることである。
- ④ 発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、学習の中心になる考えを明確にすることにより、鑑賞したことが発想し構想を練るときに生かされ、また、発想や構想をしたことが鑑賞において見方や感じ方に関する学習に生かされるようになる。
- ⑤ 主題を生成しとは、強く表したいことを心の中に思い描くことであり、創造的な発想や構想の学習を進める上で基盤となるものである。
- ⑥ 題材では、教師が目的や条件、表現方法を明確にし、生徒の多様な個性やよさが伸ばせるように工夫することが求められる。
- ⑦ 見方や感じ方を深めるとは、鑑賞の視点を豊かにし、美術作品や美術文化に対する見方や感じ方を深めることである。見方や感じ方を深めるためには、生徒一人一人の見方や感じ方を大切にした指導が求められる。

20	21	22
----	----	----

【3】第二次世界大戦以降、美術を取り巻く社会状況は大きく変化し、それまでにない多彩な表現が生まれた。
その中で生まれた絵画表現について、次の問いに答えよ。

(1) 次の、絵画表現(ア)～(ウ)の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

ドリッピングを用いたアクション・ペ
インティングで表現した。

(ア)

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

漫画や広告からのイメージを拡大して、
陰影をつけるための網点とともに明るく
インパクトのある画面を表現した。

(イ)

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

ドクロや悪魔的なモチーフなどをプリ
ミティブな筆致で作品に描いた。

(ウ)

- ① ジャン＝ミシェル・バスキア ② ジュゼッペ・ペノーネ ③ ロイ・リクテンスタイン
④ ジャクソン・ポロック ⑤ ドナルド・ジャッド

(ア)	(イ)	(ウ)
23	24	25

(2) 第二次大戦後、日本の美術界では美術団体の復活や再編成が行われたが、従来の美術表現における既成概念を壊すような、先鋭的で斬新な表現も試みられるようになっていった。次の、我が国における絵画表現 (ア) ～ (ウ) の作者と表現方法にあてはまる作品を、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

(ア) 吉原治良

大阪で1954年に具体美術協会を結成した。既成概念に捉われない、個性的な表現が特徴。

(イ) 白髪一雄

天井から吊るしたロープにつかまり、床に広げたキャンパスの上に絵具を置いて縦横無尽に足で描く独自の方法を編み出した。

(ウ) 村上隆

グロテスクな描写とユーモラスな形態を表現した。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

(ア)	(イ)	(ウ)
26	27	28

- (3) 次の文章は、第二次世界大戦後から現代につながる美術の様々な潮流についての説明である。(ア)～(ウ)にあてはまる最も適切な語句を語群から選び、番号で答えよ。

(ア)は、1940年代半ばに興ったヨーロッパにおける抽象絵画の美術運動である。ジョルジュ・マチューは即興的に絵筆を走らせた痕跡を作品とするなどして、潜在的な意識から生まれ出るものの表現を試みた。フランスの美術評論家ミシェル・タピエは具体美術協会の作品を日本における(ア)として海外に紹介した。

(イ)は、廃物や印刷物を流用したり、日常的に目にする記号や象徴をモチーフにしたり引用したりして、作品制作を行う美術運動である。代表的な作家に、ロバート・ラウシェンバーグやジャスパール・ジョーンズなどがある。

また、(ウ)は、1970年代に興った記号や文字、文章、身体表現などを用いて、視覚化できない観念などを表現した世界的な美術の様式である。右の作品はジョセフ・コッススの作品であるが、椅子や椅子の写真などを合わせて展示することで、それぞれの関係性を見る人に問いかけた。

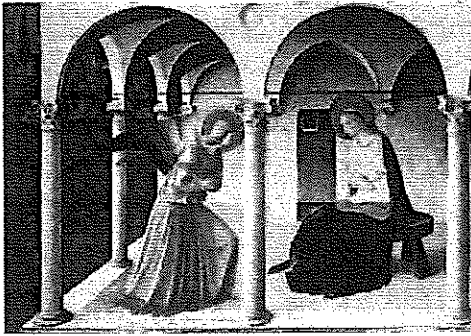
著作権保護の観点から
掲載いたしません。

語群

- | | | |
|------------|----------------|-----------|
| ① 新現実主義 | ② アール・ワークス | ③ アンフォルメル |
| ④ ポップ・アート | ⑤ ミニマル・アート | ⑥ 抽象現実主義 |
| ⑦ メディア・アート | ⑧ コンセプチュアル・アート | ⑨ ネオ・ダダ |

(ア)	(イ)	(ウ)
29	30	31

(4) 次の作品は様々な展色剤と絵の具を用いて制作されている。下の(ア)～(ウ)の作品に使われている描画材の特徴について正しく説明されているものはどれか。それぞれ①～⑤から選び番号で答えよ。



(ア)



(イ)



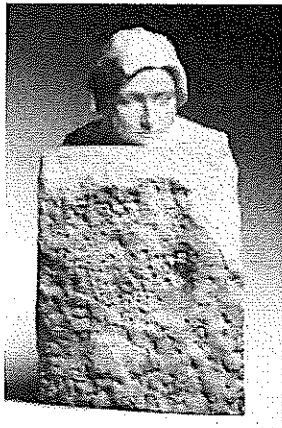
(ウ)

- ① 卵が展色剤の役割を果たす。卵のタンパク質と脂質が顔料を包んで画面に定着させる。
- ② マメ科の植物かアラビアゴムノキから採取した樹脂を展色剤とする。
- ③ 展色剤は使わず、石灰や水、砂などを混ぜ合わせた漆喰を壁面に塗り、乾かないうちに、水で溶いた顔料を塗って描く。
- ④ 動物性コラーゲンを主成分とする膠を展色剤とし、描く際は顔料と溶かした膠を混ぜて使う。
- ⑤ 乾性油を展色剤にした絵の具である。独特の光沢と透明感があり、乾燥に時間がかかるが、しっかりと定着する。

(ア)	(イ)	(ウ)
32	33	34

【4】 石は古くから彫刻の素材として使われ、様々なイメージの作品が作りだされている。石を素材とした彫刻について次の問いに答えよ。

(1) 次の、諸外国における彫刻作品（ア）～（ウ）の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。



大理石の塊から滑らかな肌を彫り出しつつある過程が見られる。大理石は結晶質なため、表面を磨き上げることで半透明の美しい質感を出すことができる。

（ア）

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

大きなマントで覆われた、一見、凹凸の少ない彫刻であるが、灰白色の石の素材により陰影が強調され、微妙な形の変化に加えて、傾きや重心なども感じられる。

（イ）

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

彼の作品は「歩行」によって生まれる。彼はさまざまな場所を歩き、採取した石などの自然素材を使って作品を生み出す。

（ウ）

① ジョヴァンニ・ストラッツァ

② オーギュスト・ロダン

③ ジャコモ・マンズー

④ リチャード・ロング

⑤ ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ

（ア）	（イ）	（ウ）
35	36	37

(2) 次の、我が国における彫刻作品(ア)～(ウ)の作者をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

磨き上げられた滑らかな表面と丸みを帯びた形体から、軟らかそうで安らいだ印象を与えてくれる。

(ア)

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

「おいしい石の調理法シリーズ」では、硬い石をナイフで切れてしまう軟らかいもののように表現した。

(イ)

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

原石を割ったままの表面を生かし、大きさとバランスにより、見る者を圧倒し、硬さや重さといった存在感を感じさせる。

(ウ)

① 伊藤博敏 ② イサム・ノグチ ③ 渡辺 忍 ④ 流 政之 ⑤ 安田 侃

(ア)	(イ)	(ウ)
38	39	40

(3) 次の文章は、世界各地、様々な時代に人の手によって思いが込められ、つくられた石の造形についての説明である。(ア)、(イ)にあてはまる最も適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

(ア)にあるアンコール・トム遺跡、バイヨン寺院には、観世音菩薩を模したとされる多くの人面像があり、大きなものは高さが約2.4mもある。新しい都を建造した王が、都の安定と繁栄を願って設置したと考えられている。

- ① インドネシア ② ネパール ③ インド ④ カンボジア ⑤ タイ

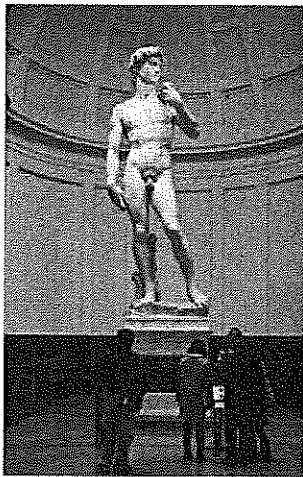
41

モアイは、(イ)、イースター島の先住民が祭祀目的でつくったと言われている。張り出した顎や長い耳たぶが特徴で、多くは海に背を向けて立てられていた。首から下に手や胴体のある像も存在する。

- ① メキシコ ② エクアドル ③ ペルー ④ キューバ ⑤ チリ

42

(4) 次の作品が位置づけられている美術の潮流の名称として最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。



《ダヴィデ》

- ① バロックの美術 ② ルネサンスの美術 ③ ローマの美術
④ ゴシック美術 ⑤ ギリシャの美術

43

- (5) 次の文は、テラコッタを使った塑像の制作方法についての説明である。(ア)、(イ)にあてはまる適切な語句を語群から選び、番号で答えよ。

土のもつ素朴な味わいを、そのまま作品にする方法に、粘土を素焼きにしたテラコッタがある。

素焼きをするには、粘土が十分に乾燥していなければならず、かたまり状の粘土は乾燥する際ひび割れしやすいので、厚みのある作品は、完成後に底から粘土をかき出したり、二つ割りにして内部の粘土をかき出し、切り口に (ア) をぬって接合したりして、中空にしてから乾燥させるとよい。また、空気が粘土の中に入っていると、焼成時に膨張して、作品が破裂することがあるので、(イ) を混ぜて粒子を粗くして、空気が抜けやすくしたテラコッタ用粘土を使うとよい。

語群

- | | | |
|--------------------|--------------------|----------|
| ① 素焼きを粉にしたシャモット | ② 釉薬 | ③ 白色セメント |
| ④ 同質の粘土を水で薄くのばしたどべ | ⑤ 漆と砥の粉を混ぜ合わせた「さび」 | |

(ア)	(イ)
44	45

【5】伝達の効果について、次の問いに答えよ。

- (1)「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における第2学年の内容及び第3学年の目標と内容についての解説の一部である。(ア)、(イ)にあてはまる適切な語句を選び、番号で答えよ。

伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練るとは、情報や気持ちなどを分かりやすく美しく的確に伝えるという効果と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ることである。より多くの人に分かりやすく美しく伝えるには、(ア)な表現方法の特性を理解し、(ア)な受け手の印象などを考えながら、「何のために」、「どのような内容を」、「どこで」、「どのような方法で」、「誰に伝えるか」などの目的や(イ)を基に、形や色彩などの伝達の効果と美しさを総合的に考えて構想することが重要である。そして、内容や雰囲気にもふさわしい構成や配色、文字の取り入れ方など、美的秩序がもたらす効果を捉えさせて発想や構想ができるようにする。

(ア) ① 芸術的 ② 造形的 ③ 多様 ④ 独特 ⑤ 現代的

46.

(イ) ① 条件 ② 意図 ③ 感情 ④ 相手 ⑤ 対象

47

- (2)ポスターについて(ウ)(エ)にあてはまる最も適切な語句を①～④の中からそれぞれ選び、番号で答えよ。

著作権保護の
観点から
掲載いたしません。

画面下部の燃え盛る炎、燃える木々のシルエットに目を引かれ炎と煙に誘導されるように画面上部に目を映すと、暗闇に動物の瞳が輝き、鑑賞者に怒りと悲しみを訴えてくる。(ウ)を用いた劇的な表現が、心に肉迫する強いメッセージを伝えている。

① 具体物 ② 透視図法 ③ ピクトグラム ④ 抽象物

48

著作権保護の
観点から
掲載いたしません。

鮮やかな色彩で描かれた金魚・地球の背景には白い雲が浮かぶ真っ青な空と、濁色で描かれたごみの浮く波立つ海を(エ)させ、海洋汚染の深刻さを一層強調している。

① 調和 ② 対比 ③ 同化 ④ イメージ

49

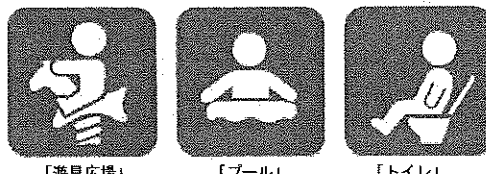
- (3) 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 美術」(令和2年3月 国立教育政策研究所) 第3編 題材ごとの学習評価について(事例)「私たちの町を案内しよう～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」における、題材の概要と題材の評価規準に関する記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる正しい語句を選び、番号で答えよ。

＜題材の概要＞

自分たちの住む地域の人や訪れる多様な人々に対して施設や場所などの情報を分かりやすく伝えるために、(イ)などを考えた複数のピクトグラムを制作する。伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果、分かりやすさと美しさなどとの調和を総合的に考え構想し、表現の意図に応じて創意工夫して(ウ)創造的に表す。また、伝達のデザインの作品や生徒の作品などを鑑賞し、調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。

＜生徒作品例＞

「市民公園のピクトグラム」



「遊具広場」

「プール」

「トイレ」

「私たちの町を案内しよう～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」の題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
知 形などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、(ア)で捉えることを理解している。 技 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。	発 私たちの町を案内するために、伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどとの調和、(イ)などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 鑑 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、(イ)などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し(ウ)表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(ア) ① 全体のイメージ ② 色 ③ 機能性 ④ よさや美しさ ⑤ マーク

50

(イ) ① 魅力 ② イメージ ③ 統一感 ④ 表現 ⑤ 多様性

51

(ウ) ① 簡略化しながら ② 粘り強く ③ 見通しをもって
④ 条件をもとに ⑤ 考えをもって

52

【6】 工芸について、次の問いに答えよ。

(1) 次は、我が国の焼き物についての説明文である。

鎌倉時代、中国の宋・元の影響を受けながら、尾張の瀬戸焼や常滑焼、備前の備前焼など、各地で陶器の生産が発展していった。これらの陶器は日本各地に広く流通していった。

安土桃山時代、文禄・慶長の役の際に、諸大名が連れ帰った朝鮮人陶工により、登窯や絵付けの技法が伝えられ、九州、中国地方の各地で陶磁器の生産がはじめられた。有田焼、薩摩焼、萩焼、平戸焼、高取焼などが有名である。特に（ア）では磁器がつくられ、（イ）は上絵付の技法で赤絵を完成させた。

① 下線部 a の焼き物として適切なものを①～④から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

①

②

③

④

53

② （ア）にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

① 有田 ② 薩摩 ③ 萩 ④ 平戸 ⑤ 高取

54

③ （イ）にあてはまる適切な人名を①～⑤から選び、番号で答えよ。

① 本阿弥光悦 ② 酒井田柿右衛門 ③ 高村光雲
④ 尾形乾山 ⑤ 俵屋宗達

55

(2) 次の文は、焼き物の一般的な製作工程の説明である。

採 土 : 土を採取する。

土 練 り : 土を均一化するねり方と、内部の (ア) を取り除く練り方がある。

成 形 : ろくろ成形の他、手びねり、(イ)、板づくりなどがある。

加 飾 : 色の異なる粘土を組み合わせ素地自体を装飾する技法と、粘土が生乾きの時に表面に装飾を施す技法などがある。

乾 燥 : 水分を完全に抜くために、器の状態に応じて、時間をかけて、陰干しや天日干しなどを行う。

素 焼 き : 本焼きより低い温度(700度~800度)で焼成する。

(下)絵付け : 筆などを使い絵付けをしていく。まだ水分を吸収する状態なので、高い技術が要求される。

施 釉 : 内掛け、流し掛け、浸し掛けなど器の形や大きさによって掛け方が変わる。

焼 成 : 陶器は1100~1250度、磁器は (ウ) 度で焼成する。

① (ア) にあてはまる適切な語句を①~⑤から選び、番号で答えよ。

① 油分 ② あく ③ 鉄分 ④ 気泡 ⑤ 不純物

56

② (イ) にあてはまる適切な語句を①~⑤から選び、番号で答えよ。

① 荒練り ② たたきびねり ③ ひもづくり ④ 打ち出し ⑤ 手造り

57

③ (ウ) にあてはまる適切な数値を①~③から選び、番号で答えよ。

① 900~1000 ② 1100~1200 ③ 1300~1400

58

【7】生活や社会の中の美術の働きについて、次の問いに答えよ。

(1) 快適で暮らしやすい環境について (ア) に最も適切な語句を①～⑤の数字で答えよ。

普段何気なく歩いている道や広場は、周辺の景観も含めて美しいことが望まれます。また、通る人や使う人の立場に立った工夫があります。そして、利便性だけではなく、(ア) や (a) 安全性にも配慮が必要です。未来の社会を見据え、自然との共生、心和む美しさなど総合的な視点で、これからの環境について考えていくことが求められます。

- ① 的確さ ② 無駄を省くこと ③ 伝統を継承する事 ④ 緊張感 ⑤ 心地よさ

59

(2) 次の生徒作品は「道」をテーマに、通る人の思いなどを考えて制作されたものである。(a) 安全性を配慮した視点で考えられた部分について適切なものを①～③の番号から2つ答えよ。

②[照明]クレヨン型の照明。

街灯だけでは照らしきれない足元を照らす。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

①[歩道]絵の具のペイントをあしらい、
楽しいイメージにした。

③[ガードレール]透明な分度器のガードレール
であるので、先が見えるようになっている。

60

61

【8】映像メディア表現とその指導について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、19世紀以前の映像装置とその説明である。(ア)～(エ)にあてはまる語句の組合せとして適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(ア) は、円盤の両面に異なる絵を描き、紐を付けて回転させることで、2つの絵が重なって1つの絵に見えるようにする円盤型の玩具である。視覚の残像効果を利用している。

1831年、ジョセフ・プラトーによって発表された(イ)は、分割された円盤に連続した絵を描き、円盤を回転させながら鏡に映し、スリットを通して見ることで、動いているように見える。日本では「驚き盤」と呼ばれる。

1876年にフランスの発明家エミール・レイノーによって発明された(ウ)は、円筒型のアニメーション装置である。円筒の内側に連続した静止画を描き、円筒を回転させながら内部の鏡に映し、覗き穴から見ることで、動いているように見える。

1891年にアメリカのトーマス・エジソンは映像鑑賞装置の(エ)を発明した。これは、フィルムに記録された連続写真コマを、光源で照らしながら、覗き穴を通して見る仕組みである。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
① フェナキストスコープ	ソーマトロープ	ブラキシノスコープ	シネマトグラフ
② ダゲレオタイプ	フェナキストスコープ	キネトスコープ	ブラキシノスコープ
③ フェナキストスコープ	ソーマトロープ	ブラキシノスコープ	キネトスコープ
④ ソーマトロープ	フェナキストスコープ	ブラキシノスコープ	キネトスコープ
⑤ ソーマトロープ	ブラキシノスコープ	フェナキストスコープ	シネマトグラフ

62

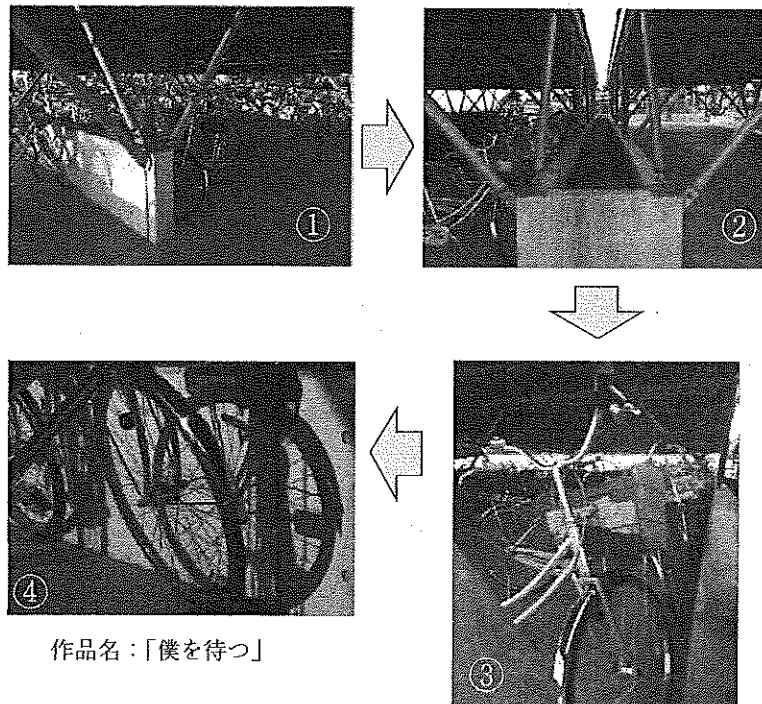
(2) 次のデジタル画像のカラーモデルの説明として最も適切なものを①～③から選び、番号で答えよ。

- ① デジタル画像では、RGBカラーモデルが最も一般的に使用される。この色空間は赤、青、黄の三原色で色を生成している。
- ② ビットマップ画像で表現できる色数は色深度によって決定される。色深度が高いほど多くの色を表現できるが、データサイズも大きくなる。
- ③ デジタル画像の色表現には、CMYKカラーモデルが用いられることが多い。これはディスプレイの色を再現するために適している。

63

(3) 次は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(令和2年3月 国立教育政策研究所)に示されている生徒の撮影の改善例と生徒のワークシートの記述例である。下線部の生徒の撮影の改善例とワークシートの記述から教師が見取った学習状況の観点として適切なものを①～③から選び、番号で答えよ。

<生徒の撮影の改善例>



<生徒のワークシートの記述例>

放課後の下校するときに私を待っている自転車を表現しようと考えた。1枚目は、画面の中央に自分の自転車を置いて撮影したが、普通のスナップ写真のようになってしまったので、2枚目は、自転車置き場の柱が左右対称になるような構図を考えて、左側に自分の自転車を置いて撮影した。写真としては面白い感じになったけれど、自転車が私を待っているような感じが出ていないので、3枚目は、自分の自転車を画面に大きく入るように撮影した。もう少し放課後に待つ感じを出そうと思い、4枚目は、撮影するのを授業の最後の方まで待って、夕日が自転車に当たって放課後に私を待っているような雰囲気になるように撮影場所を工夫した。

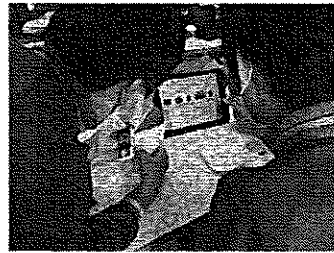
<教師が見取った評価の状況>

生徒の撮影の改善例では、生徒が生み出した主題を創意工夫してよりよく表現しようと、粘り強く取り組んだり、自己調整を図ったりしている姿が見られた。

① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

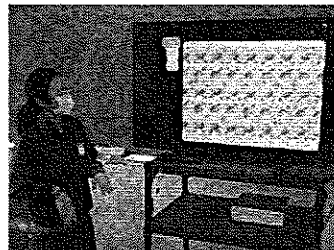
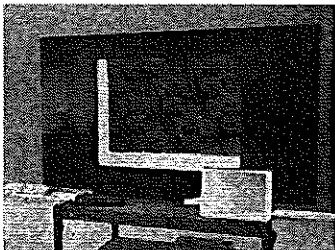
64

- (4) 次の文は「GIGAスクール構想のもとでの中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）、高等学校美術科の指導について」（文部科学省）における美術科で指導を行う際に、ICTを活用した事例である。ICT端末の機能を活用することで、表現や鑑賞を深めるための工夫として、（ア）、（イ）にあてはまる最も適切な語句をそれぞれ①～④から選び、番号で答えよ。



インターネットを活用したWebページの閲覧やクラウドに保存した画像を使うなどして、デザインの鑑賞をし、自然の造形の形や色彩などの働きを理解して、見方や感じ方を深める。その際、関連サイトのブックマークを準備したり、（ア）に応じた画像を教師が精選してクラウドに上げたりする。

- ① 生徒が選んだもの ② 制作したいもの ③ 学習のねらい ④ 環境



構成できた作品を（イ）、大型モニターなどに映し出して発表したり、お互いに批評し合ったりする。発表を聞く生徒には、発表の様子をICT端末のカメラ機能を使って撮影して記録させたり、文書作成ソフトを使ってメモを取らせたりする。

- ① クラウドに上げて ② 印刷して ③ 端末に保存して
④ 自分の画面を友達に見せたり

(ア)	(イ)
65	66

中高美術

正答・配点一覧表案

問番号（全 66 問）	解答番号	正答	配点
午前【1】（1）	1	⑤	2
（2）	2	①	2
（3）	3	⑤	2
【2】（1）（ア）	4	③	2
（イ）	5	④	2
（ウ）	6	⑤	2
（2）（ア）	7	①	2
（イ）	8	③	2
（ウ）	9	①	2
（3）（ア）	10	①	2
（イ）	11	③	2
（ウ）	12	⑤	2
（エ）	13	④	2
（オ）	14	②	2
（4）（ア）	15	②	2
（イ）	16	③	2
（ウ）	17	①	2
（エ）	18	①	2
（オ）	19	⑤	2
（5）	20・21・22	①・③・⑥	6
【3】（1）（ア）	23	④	1
（イ）	24	③	1
（ウ）	25	①	1
（2）（ア）	26	③	1
（イ）	27	②	1
（ウ）	28	④	1
（3）（ア）	29	③	2
（イ）	30	⑨	2
（ウ）	31	⑧	2

(4) (ア)	32	③	2
(イ)	33	⑤	2
(ウ)	34	①	2
【4】(1) (ア)	35	②	1
(イ)	36	③	1
(ウ)	37	④	1
(2) (ア)	38	⑤	1
(イ)	39	①	1
(ウ)	40	④	1
(3) (ア)	41	④	2
(イ)	42	⑤	2
(4)	43	②	2
(5) (ア)	44	④	2
(イ)	45	①	2
【5】(1) (ア)	46	③	2
(イ)	47	①	2
(2) (ア)	48	①	2
(イ)	49	②	2
(3) (ア)	50	①	2
(イ)	51	③	2
(ウ)	52	③	2
【6】(1) ①	53	④	2
② (ア)	54	①	2
③ (イ)	55	②	2
(2) (ア)	56	④	2
(イ)	57	③	2
(ウ)	58	③	2
【7】(1) (ア)	59	⑤	2
(2)	60・61	②・③	4
【8】(1)	62	④	2
(2)	63	②	2
(3)	64	③	2
(4) (ア)	65	③	2
(イ)	66	①	2